（4） ストック

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Rhizoctonia solani*	1.発病圃からの採種は避ける。 2.前作に発生した圃場には作付を避ける。 3.排水を図り、被害株は早めに処分する。	播種前	M3・1	(混)ホーマイ水和剤
2 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.病株は早めに抜き取って処分する。 2.ハウス栽培では過湿にならないようにする。 3.アブラナ科作物との輪作は避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発病初期 1.感染時期を逃さないよう早めの散布を心がける。	発病初期 (開花40日前から10日おき3回)	1	トップジンMゾル
3 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.施設栽培では暖房と換気によって室内湿度を下げる。 2.無加温栽培では凍結しないよう、保温する。			
4 アブラムシ類 (モザイク病 TuMV CMV 斑紋病 BBWV)	1.育苗中は防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。 2.シルバーマルチ、シルバーストライプマルチ、シルバーテープを使用する。	発生初期	1B	マラソン乳剤
5 コナガ	1.照り葉品種より、有毛品種で発生が少ないので、有毛品種を植える。 2.防虫ネット（2㎜目合以下）で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。 3.アブラナ科雑草は発生源となるので、除草に心がける。	定植時	1A 1A	ガゼット粒剤 オンコル粒剤5
		発生初期 (多発の場合は7日おき)	3A 6 11A 11A 11A 15	マブリック水和剤20 アファーム乳剤 バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 トアロー水和剤CT ノーモルト乳剤
6 ハイマダラノメイガ	1.防虫ネット（2㎜目合以下）で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。	育苗期	4A	モスピラン粒剤